



リカ、Kビジョンに出演

日々の暮らしの中から③

長女リカがNGO「地に学院」で学び、博士号を取得
平和」の派遣員としてパレスチナに住むようになったのは1995年のことだ。

ユダヤ人とパレスチナ人の領土問題などをめぐって長く紛争が続いていたが、1993年のオスロ合意によって解決への目途がつく。そこでパレスチナの貧しい母子の保健プロジェクトに従事するためにパレスチナに赴いた。

しかし、情勢は好転せず、2002年に帰国。東大で



リカ(約東)が取材を受ける様子

を持って娘

1947年の国連分別案

と3人でパレスチナのトラウマを持つ子供たちの学校を訪ねた。しかし、わずかな支援でも期待されて実態を知り、「これが最後で



す」と言い出せずに帰国した。田上記者は読売新聞に同行記事連載するとともに、この20年振りのパレスチナ訪問は、Kビジョンの「あなたに会いたい」で放送してもらった。

今回、わずかな時間だがリカが帰宅したことを知ったKビジョンから「あなたに会いたい」に出演依頼があり、先日、我が家で収録があった。16日から2週間

にわたり放送されるそうだが、関心のある方は見て、パレスチナ問題に関心を

持っている。親の私たちが、Kビジョンとパレスチナ

関わりは長い。リカがパレスチナに住むようになり、「ワード

現地から「何度も同じ紙オムツを使うので、赤ちゃんのオムツかぶれがひどく、本の布オムツがほしい」と連絡して来た。それが新聞を通じて報じられると、た

自宅取材を受け、リカ(約東)が取材を受ける様子

が段々に、それを私たち夫婦で手荷物として届けることになった。一昨たが、友人の読売新聞の田上記者(当時)に同行させてほしいと頼まれ、3人で最後の支

持てるだけの布オムツを現良識に期待したい。

「アメリカ第一主義」のトランプ大統領になり、パレスチナ問題では、イスラエル側の立場を繰り返す。1947年の国連分別案によって国際管理地区となつたエルサレム。しかしトランプ大統領はイスラエルの首都をエルサレムにすることを認め、アメリカ大使館もテルアビブからエルサレムに移転することを強行した。

アメリカの中間選挙を控え、自分に有利になることを進める姿勢に各国首脳は頭を痛めている。それでもアメリカ国民が選んだのだから他国がどうすることも出来ない。アメリカ国民の良識に期待したい。